

## 第2回年会を終って

実行委員長 宇野 良清 (日本大学文理学部)

昨年6月頃、行事担当の下村幹事から第二回年会を我々の学部で開催できないかとの御要望があり、あまり大きい規模ではなく、放射光利用実験経験者が4名いるので、お引受けすることとした。総務係・総務係補佐・会場設営係・アルバイト募集教育係の4名が動けば何とかやれると考えたからである。

例年4月6・7日は入学式前の学園の静かな時期であり、正門前の桜も見頃になるはずであったが、昨年暮れになり6・7日に新入生のガイダンスを実施することになってしまった。そのため落ち着いた学会となり申し訳ない次第である。桜の花も暖冬のために開いてしまったが、花冷えのおかげであまり散らずに残っていたことがせめてもの慰めであった。

正門に近い年会本部付近の教室がガイダンスに使用され、講演会場に適当な教室がふさがっていて、初日の午後には正門から一番遠い校舎に会場を移させて頂くことになってしまった。また当日までポスター会場の照明の良くないことに気がつかず、補助照明を設備する時間が無くて我慢して頂いたこと、評議員会会場に予定した会議室が使用できず教室を使って頂いたことが心残りである。しかし幹事会の予想をはるかに超えた参加者に恵まれたこと、ポスター会場ではあちこちで盛んな討論の花が咲いたことは実行委員会としても無上の喜びであった。

ビデオテープに撮った画面の映写が講演会場で出来なかったこと、自家用車での来場を原則としてお断りしたことは許していただけるにしても、評議員会の弁当に箸が入っていないのに気付かなかったことはどうも気の引けることであったし、懇親会の予約人数が多すぎると思いながらそのままにしまったところ、結果としては出席者がほぼ半数で申し訳ない気持ちが残ってしまった。ポスター会場のポスター用ボードについて今回は応用物理学会から旧式のを借用したがあまり良いものではないので今後どうするかは検討を要するであろう。年会ではともかく時間の流れを追わなくてはならないために、小さな支障があっても皆様が助けて下さるおかげで、非力な実行委員会でも責めを果たすことが出来たのであって深く感謝している。

昨春、世界に先駆けて日本放射光学会が創設され、初めて一般講演が公募される年会を開かせて頂いたことは光栄の至りであり、放射光学の多方面にわたる発展にお役に立つことが出来れば幸いである。関西SORを始め広島・仙台・九州にも放射光源が建設され、数年後数倍に発展した放射光学会年会を再びお世話できるのを楽しみに思うのは老人の繰り言と言われるであろうか。